令和３年度　第４回　白山高等学校　学校運営・活性化協議会　概要

令和４年３月１０日
白山高等学校会議室

１あいさつ

白山高等学校長

白山高等学校の志願者数は前期・後期合わせて８７名で、昨年度から微増という状況であった。丁寧な指導を心がけており、周りの方々からは学校が良くなってきたねといったお声がけをいただくようになった。第１・２志望というわけにはなかなかいかないが、第３希望では志願されるようになってきた。

白山高校の果たすべき役割について話し合っていく必要がある。

三重県教育委員会教育政策課

白山高校としての取り組みを県教育委員会でも共有させていただく。

入学する子どもたちのためにも、各学校が地域とともに活性化に取り組んでいく必要があり、我々としてもしっかりと支援していきたい。

２報告事項

（１）第３回白山高校運営・活性化協議会の概要について

（２）令和３年度　地域と連携した白山高等学校の取組みについて

・地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業実施報告

写真入りの資料

①　２年生全員が、地域を盛り上げようというテーマで６つの講座に分かれて地域を学びの場として取り組んだ。

昨年度まではＬＨＲや他の時間を使っていたが、今年度からは毎週月曜日の総合的な探求の時間に行なった。

②　３年生は名松線のＰＲとして、地域の小学生や短期大学生とコラボして写真撮影やポスター作成に取り組んだ。

・地域に学ぶ取組一覧

多くはこちらからお願いをして取り組んだものだが、依頼を受けて取り組んだものもあり、川口小学校や高田短期大学とのコラボや、東京にある三重テラスをはじめとする県内外のブースなどでのポスター展示会などがそれに当たる。

（詳細は第３回会議の議事概要冊子の５ページにある取組一覧を参照）

３協議事項

（１）令和３年度白山高等学校マネジメントシートについて

・基礎学力定着について、ユニバーサルデザインの授業を啓発するのための研修を実施した。

・進路決定について、働く現場や上級学校の見学などを実施した。
卒業生を招く講演会はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、昨年度に引き続き実施できなかった。

・生徒の人権意識の向上について、生徒の規範意識や社会性の育成に取り組んだ。自他を大切にし、命を大切にする心を育むために、本校のＳＣを中心にＩＣＴを活用し話す機会を設けた。

・３年生の長期インターンシップは、コロナウイルス感染拡大の影響で予定がたたない中、少ない回数ではあるが実施することができた。

・進路に関しても、個別対応も含め、きめ細かい指導ができた。

・来年度のインターンシップについてはＰＢＬに置き換えていく方向。

・地域美化のためのゴミ拾い、情報提供による信頼の構築については、
地域やマスコミ、三重テラスをはじめ、様々な場所で実施できた。

・進路指導のための情報共有や、校内研修についても実施できた。

・困難な状況にある生徒を支援する取り組みについても、カウンセリングの日程を保護者と共有したり、ＳＣやＳＳＣと連携して話し合いを持つ場を作ることができた。

・教職員の働きやすい環境づくりは概ね改善されてきているが、会議に関して少し時間をオーバーすることがあった。次年度の課題である。

（教頭）昨年度に引き続き、コロナウイルス感染拡大の影響で通常ではない活動となった。来年度、いかにして通常に戻していくかを考えていかなければならないと感じている。

（校長）キャリア教育の内容についても、目標とするところは達成できたのではないかと思う。特に今年、意識的に行なったのはマスコミへの報道提供である。昨年度は静岡の浜松学芸高校とコラボしてポスター作成などを行なった。新しい取り組みということで新聞などに取り上げてもらうことができたが、同じことをしていたのではマスコミへの印象も弱いと判断し、地域の小学校や短大生とのコラボに移行した。

また、ポスターやリーフレットなど、紙ベースで作成することで地域の方々が何らかの形で手に渡り知ってもらうことができるのではないか。またそれにより間接的に親御さんの目に触れ、生徒も誉めてもらうことができ、生徒の自己有用感や自尊感情が高まればと思う。

ヒト・モノ・シゴトコースの取り組みの地域に関する部分もリーフレットにして、教育集会所など関係各所に情報提供していこうと考えている。

（２）次期県立高等学校活性化計画について

・次期「県立高等学校活性化計画」に対するパブリックコメントの結果概要

・県立高等学校活性化計画最終案

（県教育委員会）

新たな県立高等学校活性化計画は、来年度より５年間で議論を進めていく。社会の変化や子どもを取り巻く環境を把握し、子どもたちに求められる学びとは何か。またそれらを実現するために高等学校の学びに求められるものは何かということを現行の県立高等学校活性化協議会の中で議論してきた。

次年度以降は学校ごとに活性化協議会を開くのではなく、地域の代表者が集まり地域全体を見て協議を進めていく形になっていく。そこには学識経験者・市町の教育長・地域の有識者・小中高の学校長の代表者（すべての学校長が出席するのではなく、学校長代表が出る形)・ＰＴＡの代表などが集まることになり、多い地域では２５名くらいになると思う。

そこで協議することは、白山高校を統廃合するか否かという個別のことではな

く、津地区全体を見てどうしていくことがこどもの学びにとって１番良いことなのかということ。

（質問①）
　小さな学校である白山高校にしわ寄せがくるのではないか？

（県教育委員会）
　すべての学校を横並びに見ていくためにも、津地域全体で前向きな議論を進めていきたいと考えている。

（質問②）
　少子化により定時制への影響はあるのか？

（県教育委員会）
　こどもの選択肢が増え、むしろ学びの幅が広がっている。通信制などに対してはさらにニーズが高まっている。
　学びのニーズは年々変わっていっており、これからも変化していく。

（校長）
　今後、白山高校としての魅力をもっと発信し、存在意義を高めていくことが必要になってくる。

（県教育委員会）
　県としても、難しくて苦しい判断をしていく時期になってきているが、その判断を地域と一緒に考えていきたい。
　子どもたちが求めている学びをいかに提供していけるかということを大切にして、学校の存在意義を高めていくことが大事になってくる。唯一無二の学びを提供できるように考えていただきたい。

（３）その他

４連絡事項
（１）その他